伝えよう・広げよう・キリストの心を

福音宣教
社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

共に生きる

聖家族有志会報

No.12

編集＝瀬下幸弘（FAX）093-622-1290　mail : adoruck@axel.ocn.ne.jp

かんなづき
神無月
10
2011

9月23日（金）

教区信徒協 研修会

福音宣教（ナイス）理解と実践

280名が

学び、分かち合い、祈った一日

主よ、私は今弱い立場に追いやられている人々、特に障害を持って苦しんでいる方々に寄り添っていきたいです。共にいて下さい。
（私の福音宣言、出来ることより）

3年連続となった教区信徒協研修会が9月23日、大名町教会で行われました。テーマは「明日の教会に向かって―福音宣教（ナイス）理解と実践」。熊本地区25人、佐賀地区37人、北九州地区62人、福岡地区70人以上、修道者36人、司祭6人…実行委員会の予想をはるかに超え280人近くが参加しました。午前は森司教の講話があり、「福音宣教理解」の分かち合いが21グループで行われました。午後は「質問に答えて」その後、実践に向けた真剣な討議がなされました。信仰を「掟や教義を中心としたとらえ方」から「ともに喜びをもって生きること」に転換しようとの司教団メッセージを初めて知った人たちから、「共鳴した」「心に響いた」との感想が寄せられました。また「掟を守り、教会の仕事を手伝ってきたが」と戸惑う声もありました。

教区信徒協では、11月中に研修会記録集を作成する予定で、多くの皆様に読んでいただきたいとの意向です。（関連記事3p）

10月カレンダー

- ◆10月2日（日）石垣まんじゅう反省会 …ミサ後
- ◆10月8日（土）北九信徒協広報（小倉）…18時半
- ◆10月9日（日）東日本震災被災者への募金呼びかけ
  英語ミサと交流 ……15時
- ◆10月17日（月） 宣教部会　テレジア …19時
- ◆10月23日（日） 虹の会（生活の分かち合い） ミサ後
- ◆10月29日（土）ACO例会 …9時
  キリスト者九条の会　西南KCC　13時半
- ◆10月30日（日）北九州信徒協（小倉） …14時

東日本大震災被災者支援

9月11日の募金額は
69,231円 でした。
9/13、CTIC外国人被災者支援センターに送金

東日本大震災被災者支援関連ニュース

いつもご協力に感謝申し上げます。簡単ですが、1ヶ月の主な動きを報告致します。［Sr. 高木百世］

８月末、宮城、岩手の外国人被災者は全員仮説住宅に入られ、落ち着かれました。今後の見守りを続けられます。

８月末、福島県野田町教会訪問、原発20キロ圏内、自主避難区域に2,000人程の外国人在住。この地域は震災の被害も大きかったが、今も壊れたままになっている。子どもがだんだん減っている。外国人の人たちの生活も農家もやめなければならないだろうし、先が見えない。避難希望者の宿探しの協力もしている。

11月に、今後の支援について他団体と一緒に協議する予定がある。

９月19日（月）雨天により３年連続レクリェーション中止

世界記憶遺産見学 石炭資料館内 山本作兵衛画 と親睦焼肉

その後 道の駅

1億円の〇〇〇へ

慣れた手つきで
あっという間に
炭に火がつきました。

平和の集い

8月7日 小倉教会

林神父のお話

要約

【小倉の町と言えば】

・　66年前、８月９日、原子爆弾が落ちる予定の地でした。

・山田弾薬庫跡は、大久野島で作られた化学兵器、毒ガスなどが整理され、ここから大陸へ。日本が侵略したのです。

・　都市高速から見える十字架、メモリアル・クロス。朝鮮戦争の時、アメリカ軍が朝鮮半島で戦死した米兵のために立てたもの。こういう地だからこそ私達は、歩んだ道を固めて前に進まなきゃならないのです。

【人間は、もっと新しく、もっと人間らしく成長する】

・それは、出来事に出遭わなければ成長できません。具体的な人、できごとに出会ってこそ、人間は成長します。

【具体的な出来事に会うため広島へ】

・1997年以前から、今の原発が危険で、絶対やめなければいけない、という原発の設計技師がいたことを初めて知りました。

・新聞によると、日本政府は３・11の前に話を始めた原発の輸出を続ける、と。これは変えねばならないと思います。

【広島着】

・「広島に着いたらそっと歩いてくれ」原爆の詩人、峠三吉さんの言葉です。そっと歩くとは、広島の土の下のたくさんの叫び声が上がっています。この声に聴く。自分達がどういう歴史の上に、乗ってるのかを知るということです。

【広島聖堂から平和記念公園へ】

・　平和記念聖堂は大きな原子炉のよう。ここにいる人は、イエズスという燃料棒を持っています。カトリック信者の燃料棒の中のペレットはご聖体です。

・　全てを失った被災者のお話を聞きました。原発放射能の前には無力に見えますが、すべて失ったことから来る落ち着き、持っていないことの強さ、それを戴きました。

・平和行進で「原発の悪いことはわかるが、私達の生活は下げられない」という方と一緒に“原発が後始末できないものですよ”と語りながら歩きました。　（続きは次号）

教区信徒協研修会

［配布された資料］

1）福音宣教推進全国会議（ナイス1-1986年）への経緯
2）日本の教会の基本方針と優先課題とその解説（1984年）
3）ナイス1の司教団メッセージ
4）「ともに喜びをもって生きよう」1987年司教団メッセージ

熱心にメモをとる参加者

大名町教会聖堂

［分かち合いのポイント］

・福音宣教、実践に向け出来ることは。
・信仰を掟や教義中心から「ともに喜びをもって生き」てますか？
・典礼が「生きる喜び」となるには？
・典礼行事、バザー、委員会での話し合いが信者だけのもの（会員制クラブのよう）になっていませんか。
・教会以外の人たちと対話を通してつながりをもっていますか。
・「社会的に弱い立場にある人々」と共に歩んでいますか？

福音宣教の理解が深まりましたか？ 感想は？

わたしの福音宣言 わたしに出来ること

福音宣教理解と実践

・教えよりも、一人ひとりを大切にすること。
・福音理解の始まりと感じた。司教の言葉が心にしみました。
・現実の教会の姿は、教義や掟を中心とした在り方から転換していないのではないか。
・とっても分かりやすい話で参加してよかったです。
・教会がピラミット型で司祭がいつも決定する。信徒の気持ちまで達していない。
・幼児洗礼で、公教要理を聞くだけだった。これからは社会の問題を教会の中でも考えてはどうだろう。
・分かち合いによって救われた。苦しみの体験をさらけ出すことで人にも寄り添うことができる。
・スイス憲法の話はよかった。国の幸福度は最も貧しい人の幸福度ではかられること。
・自分は喜びを持って知らせているだろうか。
・深く深く弱い立場の人を愛し、希望を胸に明るく生きていきます。
・おだやかな心で人に接し、証し人となれるように努めます。
・教会を離れた人が立ち寄りやすい教会にしていきたい。
・ホームレスの方のための炊き出しに参加したい。
・職場で家庭で友人の中で、弱い立場の人々の視点に立って生きたい。
・森司教様の言葉を生活の中で活かしてゆけますように。
・分かち合いを進めてゆきます。平和な社会となりますように。
・今日の研修会、皆様の声が自分の小教区でも実践出来ますように。
・教会の社会参加が少しずつ進んでいる事を感じます。
・よい分かち合いが出来ました。

虹の会

9月25日　16名参加

『具体的な人や具体的な出来事に出遭って人間は成長するんだ』

８月７日の「北九州平和の集い」での林神父様のお話をもとに、参加者一人ひとりの生活の中での出来事や体験を通しての気づき、思いを分かち合いました。

９月23日の福岡教区信徒協研修会に参加された方から　信仰を掟や教義中心ではなく「生きること、しかもともに喜びをもって生きること」を中心とした生き方を大切にしたいという思いが分かち合われ、多くの方の共感を呼びました。

また、被災地でボランティアとして活動した青年からは、現地での出会いや交わりを通して、福音を身近なところで体感したという話がありました。そして彼女は愛に欠けたありのままの自分を受け止めたときに神の愛と赦しを体験できた思いを分かち合ってくれました。

分かち合いを終えて、参加者の皆様は笑顔のうちに、キリストを伝えるため各々の生活の場に派遣されていかれました。

読者投稿

下の写真は何でしょう（Y）

親睦レクが雨で中止。でもよかったです。山本作兵衛さんの絵が見られましたから。それに筑豊のことをよくご存知のＳさんがガイドされてチョッピリ物知りになりました。“筑豊”の名の由来は？　答えは「**筑**前と**豊**前の頭文字を合わせたもの」だそうです。炭坑節発祥の地が田川というのも知りました。そして上の写真はと言えば、炭坑節の二番にある“ひと山、ふた山、み山こえ～”の香春岳で、平たくなっているのが“ひと山”。石灰岩の山で、毎年削り採られるので山が低くなっていくそうです。左側が“ふた山”めです。この山が無くなると炭坑節はどうなるのかしら。もう一つクエッション。山本作兵衛さんの絵には１つだけ「大うそ」があると本人が言っています。さてそれは何？

「ともに喜びをもって生きる」を体験

最初は偶然から始まった。ある研修会に参加した娘の体験をひとつ。

互いに面識の無い者ばかりの数十名の集まり。丸一日、一緒に過ごすのなら少しでも楽しく話せる場にしたいと皆さんへ配る飴を多少用意し出かけて行った。初対面同士のグループ討議も行き詰ると自分から積極的に話を切り出した。娘のオーラは徐々に空気を和らげ、皆をリラックスさせていった。後は皆の話したい思いを自由に語る場となった。職場での疑問点、不安、辛さ、喜び…等々。一日目の終わりがけ、もっと話したいねとの誰かの声に20数名でお茶会をした。ゾロゾロ喫茶店へ行く。面白い光景だったと。盛り上がったのは言うまでもない。これからも時々集まりたいとの声が続出。企画する羽目になった娘。幅広い年齢差を越え、職場の違いや経験年数の違いを超え、本音で話せることにみんな飢えていた。社会人同士が自由に分かち合い励ましあえる場はなかなかない。

その後も２度集まりを企画し、次もまた会いたいねと皆の期待の声が届く。

娘いわく。お世話する側の苦労も知らんでよく言うよ、人を動かすのは大変なんよと笑う。

「共に喜びをもって生きる」の心がけさえあれば、自分らしく出来ることがいろいろ見えてくることを知った。

キリストのかおりを伝えつつ。（R）

ツィッター

勇気がほしい

林神父様のお話で、「何も言わなかったらあきらめの砂漠が広がる」とありました。私は勇気がなくて人前では言えません。でも今、町内でも教会内でも、ごくごく常識的な発言をしたらいけないような雰囲気になっているように感じています。勇気あるＨさんに拍手したいのですが、それすら出来ず、小さくなったままです。どうか神様、私に勇気を下さい。「間違いは後で訂正したらいい」林神父様にちょっぴり勇気をいただきました。（T）

２人目の孫誕生 ★★★★

予定日通り出産。メールで画像が送られてきました。赤ん坊の寝顔は平和のシンボルですね。♥♥（F）

「小教区」の語源は　「気兼ねなく滞在できる家」です。すべての人を喜んで迎え入れるところ。…いいですね。敵か味方か、友達か友達でないかというレベルではないですね。（K）

ご参加下さい　10／29(土) 13時半～16時半　「キリスト者・九条の会」北九州

「楽しく平和を語り合う集い」

カトリック教会と他のキリスト教会の方々との出会いのひとときを企画しました。牧師さんも多数参加します。キリストの平和を語り合いませんか。賛美歌は、カトリックでよく歌われているものです。（問い合わせ／高瀬まで）

場所は小倉北区　大韓キリスト教会横西南KCC

13時30分　会長挨拶
　　活動報告

13時50分
　楽しく平和を語り合う集い
　賛美歌「聖霊来てください」

14時～40分　茶屋先生のお話
14時50分　　分かち合い

16時　　全体の集い
　賛美歌「キリストの平和」

※黒崎の平和講演（2011年6月5日）シリーズ全7回

いま、カザフスタンでは ④

秋吉久紀夫

五、カザフスタンの歴史

カザフスタンの歴史を遡ると、今から約一〇〇万年前に既に人類が生存していた形跡があり、次第に文明社会が形成された新石器時代は約4〇〇〇年前だとされ、紀元前四世紀から五世紀にかけて、塞(サカ)族がカザフスタンの東部七河地区に国家を樹立。紀元前二世紀前後に烏孫族が伊犂渓谷と七河地区に勃興、先住民族の塞族と月氏族とが融合してカザフ族の主要な先住民族を形成。同時に康居（カングル）族がシル河流域一帯に居住した。これもカザフ族の主な民族の源の一つである。

紀元六世紀半ば、突厥族が中央アジアで優勢となり、紀元五五二年、突厥の首長ブミンは突厥汗国を樹立。彼の後継者ムカン（553～572）は国威を朝鮮半島からカスピ海まで拡大したが、やがてこの国は東西に分裂しカザフ族は西突厥汗国の統治下に置かれた。

紀元六五九年、西突厥汗国の滅亡後、突騎施（チュルギシュ）と葛邏禄（カルルク）の両部族が前後して勃興。一〇世紀中葉になると、葛邏禄汗国が現在のカザフスタンの大部分の領土を支配下においた。

当時すでに中央アジアはムスリムの拡大が進み徐々にイスラム化されていた。やがてカラハン王朝と契丹人が建国した西遼政権が先後してこの一帯を統治し一三世紀前期のモンゴル族の中央アジア侵攻となる。

紀元一三世紀から一五世紀までの数百年間、カザフスタンはモンゴル族の建てた金帳汗国、白帳汗国、察合台汗国の分割統治となった。この間、カザフ草原に居住していた欽察、康居、克烈、乃蛮、弘吉剌、札剌亦児などの部落間での交流が密になり、欽察語（キプチャク語で現在のカザフ語の前身）が使用され始め、次第に一つに融合し合ってカザフ民族が形成され始めた。

紀元一四二八年、白帳汗国は崩壊し、その故地はアブルハイル汗国の領土（首都スグナク）となった。そのため国内は不安定となり、対外的にも戦乱は絶える事はなかった。紀元一四五六年、もともと白帳汗国を構成していたケレイとジャニベクとが所属する部落を率いてアブルハイル汗国を離脱、カザフ人と自称し東の楚河と塔拉茲河の流域に移動、独立したカザフ汗国を打ち樹てた。この時カザフ民族共同体の成立したのである。カザフ汗国は建国以後、勢力は絶えず拡張を続け、カスム汗の統治時期（1511～1523）になると、現在のカザフスタン全域を統治するに至った。

当時、この国の人口は100万に達し、既に30万の軍隊を擁し、政治や経済そして文化の中心もトルキスタン城に移っていた。カスム汗はさらに民衆の慣習を根拠に汗国の最初の法典である『カスム法典』を制定した。一六世紀中期以後、カザフ汗国の勢力は極めて強大となり、南のブハラ汗国を撃破して塔什干城および人口の多密な周囲の豊かな地区を占領した。タウケ汗が執政していた期間（1680～1716）、地域と宗教の相違によってカザフ汗国は大帳、中帳、小帳に分割されて統治され、この統治体制はロシア帝国が占領するまで続いていた。

同時にモンゴルのジュンガル部族が天山山脈の北麓一帯で、次第に勢力を強め、牧場と貿易ルートを強奪し、絶えずカザフ人と衝突を繰り返した。トウケ汗が世を去ると汗国内は分裂し、これはジュンガル部族にとって絶好のチャンスを与えた。一八世紀の二〇年代に、ジュンガル部族は次々とカザフの村々に大規模な襲撃を繰り返した。カザフ軍は遂に惨敗し、首都トルキスタンをはじめタシュガルやサラム城などを失った。

さらに百年に一度の極寒の到来で、カザフの人々は数え切れないほどの死者と負傷者を出した。このカザフ汗国とジュンガル部族との戦いがあっている一七世紀に、帝政ロシアが中央アジアの草原に侵略を開始したが、カザフ人の頑強な抵抗に逢い征服するのに約二〇〇年の年月がかかった。

帝政ロシアは一方ではカザフの各部とその周辺の民族間の矛盾を煽りカザフ人の勢力を殺ぎ一方では多くの堡壘と要塞を数多く築き、次第に勢力をカザフ草原に浸透させた。一八世紀中頃、中国の清朝政府はジュンガル部を殲滅し、危機下にあったカザフ汗国を救った。アブライ汗を代表とするカザフの大、中の両貴族は次々と清朝政府の配下となり、清朝と政治経済面で交流した。

一九世紀に入ると、内部矛盾の激化と帝政ロシアの滲透によって、カザフ汗国は急速に衰え、小帳規模の部落はスーダン・ブクに率いられて帝政ロシアに投降して内帳と改称された。中帳はまったくの分裂状態となり大帳も新興国浩罕（ハオハン）国の攻撃で急速に疲弊。

参考文献　趙常慶編著『哈薩克斯坦』
他（次号へ）

第五七回日本母親大会に参加して

則松地区　城下　静子

「生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることを望みます」

このスローガンのもとに日本母親大会が、七月三十日～三十一日広島で開催されました。三・一一東日本大震災の未曾有の被害がありましたので、私は自然災害、原発に対してどのように行動したらよいのか、これからの歩みを確かめたい思いで今回の大会に参加しました。そして多くの人に出会い感動と希望をいただきました。

一日目は全体会、広島県立体育館に全国より八千五百人が集いました。被災地　岩手・宮城・福島から二百五十人の参加がありました。歌ごえ、構成劇、講演。記念講演は反貧困ネットワーク代表の湯浅誠さん「貧困なくし、人間らしく生きられる社会をつくる」では、現在国内では年間三万人の自殺者が十三年続いていることに驚かなくなったことは異常である。生きづらい社会の中で多様な人たち（障害者、高齢者を含めて）が生きられる条件を社会全体で地域、職場でいかにつくるかが最も大切だと自身の家族の経験から語られた。

二日目は分科会で私は「日本で初めての震災原発」に参加しました。

二百五十人定員に四百人の参加。男性の参加者も多く、各地の原発運動を学習・交流しました。助言者安西育郎（安西科学・平和事務所）さんより、原発事故は起こった事実をしっかり受け止め政府、電力会社に「隠すな、嘘つくな、意図的に過小評価するな」を訴えること。伊藤達也（元福島県会議員、原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員）さんは二〇〇六年チェルノブイリに視察調査に行き政府・電力会社に原発震災の警鐘を訴えていたが、もっと強く訴えないといけなかったと悔やまれていた。各地の報告では、山口県上関原発で三十年間反対署名活動を続けている八十代の婦人はあきらめないで続けること。福島県では修学旅行先で放射能を持ってこないでねと子どもが言われ風評被害に悩んでいる報告。広島県より被爆者は長い間風評被害にあい、草木も生えないといわれたが長い運動のなかで復興してきた、福島県も希望を持ってと激励。埼玉県では今夏福島県原発の危険な現場作業員募集に高校生（十八歳以上）へバイトの勧誘の驚くような現状報告。その他全国の多くの原発運動を学び交流しました。これから自然エネルギーへ転換へと進めるため原発の学習を深め行動していきたい。

県外日本母親大会に24年ぶりに参加しました。懐かしい仲間ともふれあいができ参加して良かったです。ありがとうございました。

国是と信教の自由
ブックレット完成間近

信教の自由と政教分離の問題は、現在もっとも喫緊な課題の一つです。歴史がゆがめられています。天皇中心の国づくりを靖国神社中心に動いています。戦前、戦中回帰現象が興っています。信仰者はもちろん信仰なき人々にも重要な問題です。

編集後記

熊本県ハンセン病療養所菊池恵楓園で溝口製次さんが９月７日にご逝去。毎日新聞にも掲載されたが、黒崎の方々とは縁の深い方でもある。車イスに乗り、柔らかな語りで園内をいつも案内してくれた。「１人でも２人でもいいですよ。人権を学びたい方ならいつでも歓迎します」この言葉に甘えて10年間の訪問交流が続いている。この日、通夜に行った。阿部さんが迎えてくれ、ご遺体に手を合わせた。阿部さんが静かに語った。「彼は、カトリックの皆さんが来るのを楽しみにしていました。倒れてからは、私にカトリックの人を頼むよ、と。それは皆さんが真剣に私たちの話を聞いて下さっているし、学ぶ姿が本物だからです。」帰り際、私をじっと見る人が。「あっ、江口さんですね！８年ぶり」「おう、覚えちょったか。」９年前、溝口さんと江口さんが案内してくれたので名前を思い出した。「あんたらが来たら、今度わしが案内する。声掛けてくれよ」溝口さんが私たちを再会させてくれた。有難う溝口さん。（瀬下）